

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	COMBAT TANK		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.590	△RG	0.025	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール		

テストボール：COMBAT TANK

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

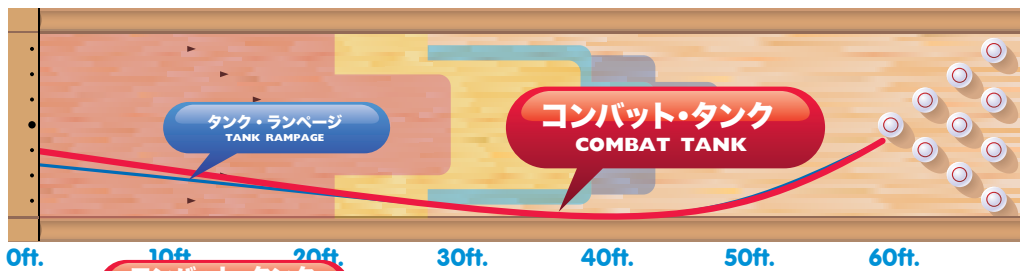
比較対照ボール：TANK RAMPAGE

フレアーの幅 インチ

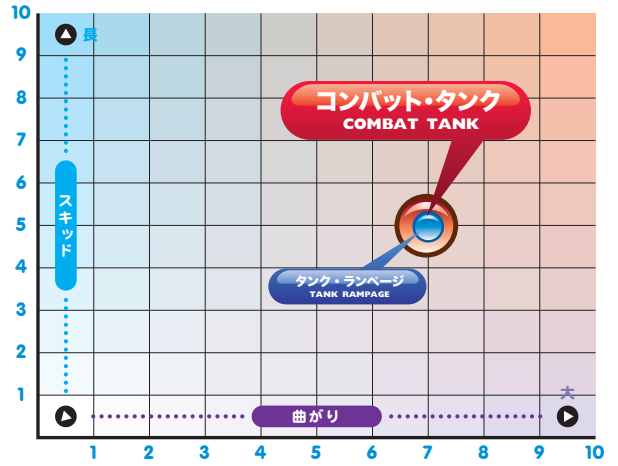
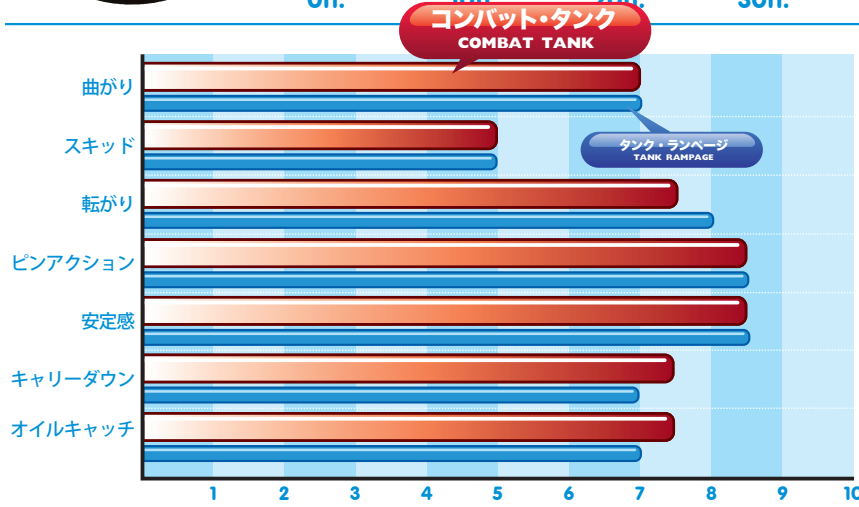
PAPからピンとの距離 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

MOTIVブランドの中で過激なリアクションを軽減させるウレタン素材を用いたモデル、それがTANKシリーズです。ウレタン素材も初代TANKから徐々にモデルチェンジし、Core Technologyも初代TANKはGear Core、REBEL TANK Halogen Core、TANK RAMPAGE Gear V2 Coreと変化してきました。今回紹介するCOMBAT TANKはTANKシリーズ中初めてであるTANK RAMPAGEで使用されたAlchemy UrethaneのHybridを搭載してきたこと。またASCENTやFree Styleで活躍しているRecon Coreを採用したことです。COMBAT TANKとTANK RAMPAGEを比較投球してみると明らかに違いを感じるのにはコアの特性です。TANK RAMPAGEのGear V2 CoreはVENOMの代表的なコアで、 ΔRG が0.020にmodifyされてもしっかりとしたネジれ感を感じることができます。一方COMBAT TANKのReacon Coreは縦長で ΔRG 0.025の影響で、ネジれるというよりは”細かいフレア幅”でコアの起き上がりが遅れるイメージが回転中に読み取れます。ですのでHybridカバーながらキャッチし過ぎるというイメージは全くなく、今までのTANKの領域同様、Medium Light領域で通常のリアクティブのボールでオーバーアクションするときには過激な動きを避けて使用できるでしょう。曲がり強く出過ぎてしまうウレタン素材のボールよりは、ウレタンよりほんの少し強めでコアで曲がり調整をしているボールのほうが全体的に継続的な曲がりをピンヒットまで持続することが容易く、ポウラーにとってはそのほうが曲がり始めから曲がり終わりが読みやすいのではないかと思います。今回MOTIV社があえてAlchemy HybridとReaconの組み合わせにしたのもカバーの特性を色濃くだし、過激な反応を抑えながらも攻めやすいボールに仕上げたかった意図をこのボールに感じました。

特記事項

TANKの最新作は初の採用のAlchemy HybridとReacon Coreとのマッチングです。持続的なキャッチの中に直進性を感じさせるコアで、ウレタン素材と同じ用途で使用できるでしょう。